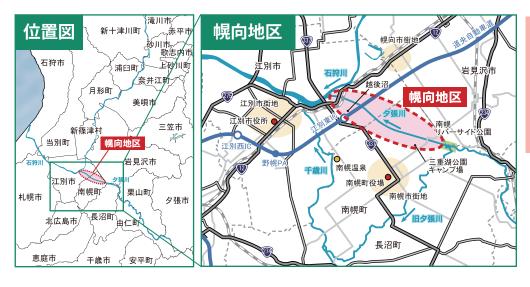
ほろむい

幌向地区の自然再生

~全国でも珍しい、低地性の高層湿原(≒ボッグ)再生を地域と協働で取り組んでいます~



幌向地区とは

幌向地区は、石狩川支川の夕張川下流に位置 しており、周辺には江別市、南幌町、岩見沢市 の市街地、道央自動車道、国道12号・337号、 JR函館本線などが位置しています。



▲幌向地区の現況(平成28年9月撮影)

湿原環境消失の危機

湿原は、華やかではありませんが、ほかでは見ることのできない学術的に も貴重な自然環境です。

減少をたどり、わずかに残る夕張川流域の湿原環境は、乾燥化などにより、 外来植物の侵入も進み、消失する恐れがあります。

湿原環境を保全・再生することが緊急の課題です。

湿原について

湿原は、枯れた植物が長い年月をかけて分解されずに泥炭として堆積 することで形成されます。泥炭は1年間でわずか1mmしか堆積しないと も言われています。

湿原は長い歴史の積み重ねそのものなのです。

湿原を もっと知りたい!



消えゆく湿原、幌向原野

夕張川流域には、かつて多様な湿生植物が生育する湿原(ミズゴケなどを主体と するボッグ)が形成されていました。

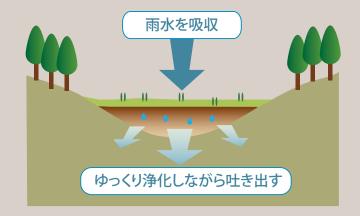
河川の氾濫が繰り返されていた流域は、治水・開発事業により、急速な発展を遂 げ、都市化や農地開発が進みました。

一方で湿原はほぼ消失し、わずかに、夕張川の河川敷の一部などが湿生植物の生 育地として、かつての幌向原野の名残をとどめています。

※幌向地区では、曲がりくねった川をまっすぐにすることで水を流れやすくする ショートカット工事が行われました。

湿原のメカニズム

湿原というのは、自然界ではスポンジのような働きをします。 スポンジの構造が水を溜め込み、ゆっくりと吐き出す過程で、各地域 の気候調節や水の浄化等を行い、常に質の高い浄化された水を下流 に暮らす人々に大きな恵みとして与えているのです。



湿原区域の 現在は?

夕張川流域の湿原面積の変遷

明治期から比べると、現在残っている湿原面積はわずか1%以下。かつての湿原風景を とどめる地域が幌向地区なのです。







湿原面積: **104**km

湿原面積:24km

湿原面積: **0.1** km

◯ 温原 ● 樹林 夕張川

※北海道殖民地選定報文附図、国土地理院古地図、国土地理院地形図及び国土庁土地分類図(土壌図) をもとに作成。

存在することが自然の奇跡

ボッグ湿原は、①水分が多い、②酸性、③貧栄養という特殊な条件が全て 揃わないと形成されません。

乾燥化や外来植物の侵入などにより、環境が変わると短期間で湿原は草 地などへ変化していきます。

とても崩れやすい環境バランスが長い時間、安定し、ボッグ湿原が存在し 続けることは自然の奇跡と言えます。



▲湿原の名残である泥炭地 (水分がしみ出して地表面の乾燥化が進んでいる状態)



外来種(オオアワダチソウなど)

▲乾燥化により、表面の泥炭が分解 泥炭の分解が進行すると、乾燥を好む 外来種が繁茂しやすい (湿原環境の消失につながる)

ほろむい七草を 守りたい

かつての幌向原野には石炭輸送のための鉄道が敷設されており、札幌圏 からのアクセスが容易であったことから、明治~大正時代にかけての湿生植 物研究の重要地でした。幌向原野において発見された湿生植物のうち7種に はホロムイの和名が名づけられました。

湿原の減少に伴い、現在ではごく一部にしか生息していない希少な湿生植 物となっています。





ホロムイイチゴ





ホロムイクグ

ホロムイコウガイ







ホロムイスゲ

ホロムイソウ

ホロムイツツジ

幌向地区の自然再生 ほろむい原野の原風景を目指して…

自然再生の手法

これらの現状を踏まえ、幌向地区では、多様な湿生植物からな る湿原を再生する取り組みを実施しています。

湿生植物が生育可能な水分条件を整えた上で、湿生植物を移 植することにより、かつての湿原環境を保全・再生します。平成28 年度より整備を実施し、継続して観察しています。

湿原再生の ための整備

泥炭層の乾燥化を防ぐため、泥炭層からの水 のしみ出しを抑制し、地中の水位を安定させて 湿生植物が生育できるように整備します。

現状: 泥炭層から水が側方へしみ出し、乾燥化が進行

水のしみ出し 泥炭層

①: 遮水により地表面近くで水位を維持

水位上昇

②:乾燥した地表面の泥炭をすき取り、湿潤面を露出

泥炭層

移植の流れ

生育環境を整え、基盤となるミズゴケや 地域の希少種などを増殖します。



ほろむい七草の他、地域の希少種を



移植後

移植したミズゴケ属や湿生植物の



これにより、かつて幌向原野に じめとした湿生植物が生育する 湿原環境が保全・再生されると ともに、外来植物の侵入抑制が 期待されます。

取り組み・期待される効果

幌向地区の自然再生により、自然

環境の多様化や向上が図られるほ か、自然とのふれあいや体験学習な どの環境教育を通じて、自然環境の重 要性や希少性を広く知っていただく ことにつながると期待されます。

平成26年2月より、地域と協働した 自然再生実施計画に基づき、再生に 取り組んでいます。





整備イメージ ヨシ等の湿生草地 ほろむい七草をはじめとする湿原の再

















ツルコケモモ

平成29年度より、地域と

協働して、ほろむい七草を

はじめとする湿生植物の

移植等を進めています。

コバギボウシ





